

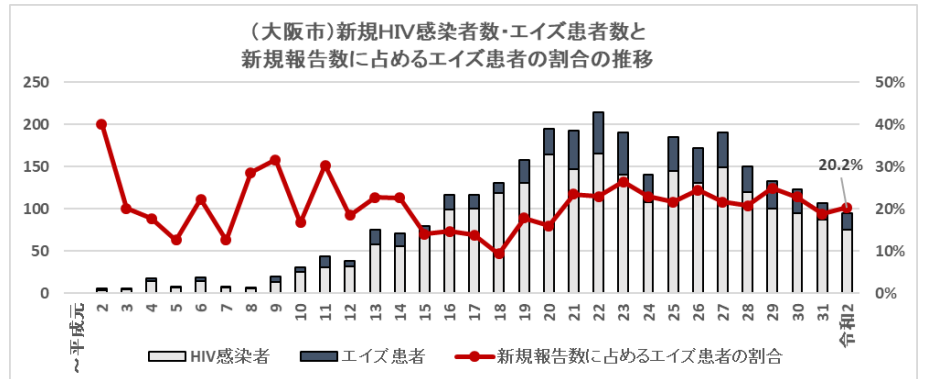
第4次大阪市エイズ対策基本指針策定について（案）

《検討の背景》

現在、「第3次大阪市エイズ対策基本指針（平成29年10月から令和4年9月までの5年計画）」に基づき対策を進めており、大目標であるエイズ患者報告数は減少に転じ目標を達成した（令和2年目標値：33人、実績値：19人）。一方で、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、HIV検査受検者数や相談件数が減少しており、引き続き、国の動向、社会情勢等の変化やHIV・エイズを取り巻く現状を踏まえ、効果的な対策を推進していく必要がある。

《現状と課題》

- 新規報告数に占めるエイズ患者の割合（いきなりエイズ率）は、20～25%で推移しており、高止まりの状況が続いている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大による保健所及び医療機関への受診控えの影響等も含めて、注視していく必要がある。
- 新規HIV感染者は20歳代・30歳代が、新規エイズ患者は30歳代・40歳代が多く、比較的若い世代を中心に感染が集中している。
- 新規HIV感染者・エイズ患者の感染経路別では、日本人男性における同性間性的接触の占める割合が高い状況にあり、MSMにおける感染拡大が顕著である。
- 近年、外国籍の男性の割合が増加しており、感染経路の内訳では、日本人男性同様、同性間性的接触の占める割合が高い状況にある。



年	平成19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31(令和元)	令和2
エイズ患者(人)	28	31	45	49	50	32	40	42	41	31	33	28	20	19
HIV感染者(人)	130	164	147	165	140	108	145	130	149	119	100	95	87	75
エイズ患者割合(%)	17.7	15.9	23.4	22.9	26.3	22.9	21.6	24.4	21.6	20.7	24.8	22.8	18.7	20.2

第4次大阪市エイズ対策基本指針概要

これまでの大阪市エイズ対策基本指針の考え方を引き継ぎ、取り組みの方向性、具体的な目標とその達成に向けた方策等を示し、目標の達成度を確認しながら、効果的、効率的、総合的に取り組みを進めていく。※斜字は第3次基本指針における目標値と令和2年（度）実績

【大目標】

今後5年間でエイズ患者報告数を15%減少（令和2年：19人→令和8年目標値：16人以下）
〔5年間で25%減少させる：達成（令和2年の目標値33人に対し、実績値19人）〕

【副次目標】

- 年間のHIV検査受検者数を今後5年間で12,000人以上にする（令和2年度：8,540人→令和8年度：12,000人以上）
〔毎年12,000人以上：未達成（令和2年度8,540人）〕
- 年間のMSMのHIV検査受検者数を今後5年間で50%増加（令和2年度：2,377人（推計値）→令和8年度：3,500人以上（推計値））
〔目標同じ：未達成（令和2年度の目標値3,371人に対し、実績値2,377人）〕
- 新規報告数（HIV感染者＋エイズ患者）に占めるエイズ患者の割合を毎年20%以下（平成29年～令和2年平均：21.6%→毎年20%以下）
〔5年間で15%以下にする：未達成（令和2年の目標値16.4%に対し、実績値20.2%）〕

【期間】 令和4年10月1日～令和9年9月30日の5年間

《基本施策と具体的な取り組み方針及び評価指標》

※各施策・具体的な取り組み方針ごとに目標・評価の目安を設定（*第4次基本指針から新たに設定）

1 正しい知識の普及啓発

- 広域的な普及啓発
 - 大阪市ホームページ（HIV等検査のページ）の閲覧数を今後5年間で25%増加*
- ターゲット層への普及啓発（個別施策層（MSM、SW、薬物使用者）、青少年、外国人）
 - MSMの過去6か月間のコンドーム常用割合を今後5年間で5%増加*
 - MSM受検者で過去に検査を受けたことのある方のうち過去1年の間に受けている者の割合を今後5年間で70%以上*
 - SW受検者で過去に検査を受けたことのある方のうち過去6か月の間に受けている者の割合を今後5年間で70%以上*
 - 全市立中学校のうち、HIV研修を受講した教職員が在籍する学校の割合を毎年70%以上
 - HIV研修受講後、受講内容を生徒の教育に活かすと答えた教職員の割合を毎年90%以上

3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・福祉の連携強化

- 連携体制の充実
- 医療及び福祉関係者への意識啓発
 - 研修受講後、HIV陽性者の受け入れを肯定した福祉関係者を毎年70%以上

2 HIV検査・相談体制の充実

- 常設検査・相談の体制整備
- イベント検査・相談等の実施
- 広報等
 - 評価指標は副次目標1、2と同じ

4 施策の実施状況とその効果の分析・評価

- エイズ対策評価委員会の開催
- 関係団体・関係機関連携会議の開催
- 感染症発生動向調査解析評価検討会の開催
 - 評価委員会等で評価

MSM：Men who have sex with men（男性間で性的接触を行う者）

SW：性風俗産業の従事者（セックスワーカー）